

海、山、砂漠、街と
変化に富んだエリアが魅力

APCOの故郷

ISRAEL

「聖地を飛ぶ」はアプコ社が数年前に製作したビデオ・フィルムのタイトルだ。

確かにほとんどのエリアが、「神の歴史」にゆかりがあるが、——**死海に飛ぶ**

何より海あり砂漠あり高原ありと変化に富んだ地形を持ち、

フライトには本当に魅力的な国である。Text & Photos: Michel Ferrer

Translated by: Yoshihiro Sato

最近、イスラエルに行ったことのある人なら、この国が大きく変化したのに気づくだろう。以前ほど緊張感がなく、人々の生活はほとんど「正常化」している。

それでも紛争が絶えなかったこの国に、積極的に興味を持つ人がどれくらいいるだろうか？

が安定している今、このイスラエルに注目してみないか？

この国は、パラグライダーでフライトするには、とにかく素晴らしい国なのだ。イスラエルの地形は、その小さな国土にも関わらず、信じ難いほど変化に富んでいる。一日のうち

と海岸の上をソアリングできる：そんなエリアからエリアまでの移動時間も極めて短い。また、エリアの一つでもある死海は、僕たちの惑星でもまったくユニークな必見の場所だ。

さらに、このイスラエルにパラメーカーとして長い歴史を持つアプコ社があることを読者はご存知だろ



誰もが知るように死海は塩分が高いので、ご覧のように身体が浮く。フライトの後にお楽しみあれ！

う。このメーカーを訪ねるだけでも行く価値は大だ。気軽に訪問できるパラメーカーはそれほど多くはなく、まして快く迎えてくれるオナー・トナールと皆無だ。だからと言って調子に乗って、オナーのアナトリ・コーンに「ツアー・ガイド」を期待してはいけません。おそらく頼まれれば、愛想よく「わたしは案内してあ



もちろんパラモーターでのフライトも可能だ。パラモーターにとってもイスラエルは魅力的だ。(Photo: Apco)

その名前とは裏腹に、
実に静かで穏やかなフライトが楽しめる！

死海 (メラゴト) >>> Map 11

その日は穏かな日で、風はほとんどなく、ときおり弱い南寄りの風が吹くだけだった。死海のエリアを飛ぶチャンスだ。ナタニヤからは120〜130kmの距離でそれほど遠くない。がイスラエルの交通量は多く、テルアビブからエルサレム付近で渋滞に巻き込まれるのを覚悟しなければならぬ。エルサレムまでは、ひたすら上り坂が続くが、エルサレムを過ぎると下り坂が続く、一転して砂漠地帯となる。いっしょに道路は海面以下になり、そのまま下がり続け、海拔マイナス420mにまで達した。

死海はその名からイメージするほど荒涼とした海ではなく、非常に美しい海(本当は湖で、すばらしい青色の水面、波、飛沫が印象的だった。死海のほとりはイスラエル側もヨルダン側もリゾートホテルが立ち並び、観光化が進んでいるという。僕たちは死海に沿ってさらに進み、次いで上り坂の道を進んで、みごとな頂上に

滞在で体験できた素晴らしいフライトを紹介しよう。

案内役は、アプコ社の共同デザイナー兼開発パイロットで、しかもアクロの名パイロットでもあるアダム・ウェジスラー。アプコ社の本拠地から近い観光地のナタニヤからスタートした。

達した。そこは非常に印象的な断崖で、テイクオフになっていた。

アダムが再度注意を促した。「決して湖の近くにはランディングしないように。地盤沈下の可能性があるからね」と言った。乾いた気候とイスラエルとヨルダンの間の紛争によって、水源となるヨルダン川から水が十分に供給されないため、死海の水位が急速に下がり、深い裂け目が足元に口を広げる可能性があるのだ。確かに、もろくなった地帯が見える。と言うわけで、ランディングは道路の上か、自動車通過した後の場所だ。

さて、テイクオフでバリオにちらりと視線をやると、なんと高度0m。断崖の下を通過したとき、数字はマイナスを示していた。変な気分だ。だが、しだいに、ゆっくりと穏かに上昇してゆく。全員が上昇する。草一本生えていない風景に、僕たちは怖気づき、おおいに謙虚になる。コンディシヨンは驚くほどマイルドだ。土ぼこりと強烈なサマーの地獄を予想していたのだが、まったく意外な展開だ。死海によって大気が安定しているのだ。ほとんどの場合、このようなコンディションだそう。

断崖の色彩やかな支柱すれすれに、静寂の中を飛ぶ素晴らしい死海フライトだった。



崖下のランディングの標高はご覧の通り、-408m。不思議な感覚になる!



テイクオフから死海を一望する。大きく開けた景色の中、湖に向かってテイクオフする。

「ゴラン高原のエリア Mevo Hama に向かった。ここは弱い西風のときに適したエリアで、ナタニヤから車で1時間ほどだ。黙示録(キリスト率いる光の軍団とサタン率いる闇の軍団が最終決戦するとされたハルマゲドン)の丘メギドを通過し、次いでキリストが幼少期を過ごしたとされ、現在イスラエル国内最大のアラブ人街であるナザレを通過する。さらにファヴオル山(別名、タルボル山、あるいはイエスが神の姿となって降臨したとされる「変容の山」)の麓を通過した。イエスが空中をナザレまで飛んだと伝えられる山だ。このタルボル山は円形のドーム状をしており、障害物がなく、イスラエルで最もよいサーマルポイントとして、ナザレまでクロカンできるエリアとして知られる。なんだか聖書の中に妙に引き込まれてしまう話だ。さらに進むとティベリアス湖(別名「ガリラヤの海」)が見えた。ギリ



トップランディングもできるが、崖下のランディングを使う事も出来る。

わずか40年前に激戦地だったことが、
信じられないほどの美しい眺望

ゴラン高原

>>>Map 1

ゴラン高原は起伏のある地形であるため、結構楽しいフライトが体験できた。

ストが水面の上を歩いたと伝えられる湖だ。まったく聖書の中にいるようだが、湖の反対側に目をやれば、ヨルダン国境を示す鉄条網が張り巡らされ、瞬時に現代の歴史に引き戻される。この地帯は、イスラエルとヨルダンの関係が沈静化した今も、地雷が埋められている。1967年の6日間戦争前まではゴラン高原はシリアの領土で、高原に配置された大砲が湖のほとりにあるキブツ(イスラエルの農業共同体)を攻撃し続けた。高原に上る道

路に沿って、塹壕やトーチカ(コンクリートで堅固に構築して内部に重火器などを備えた防御陣地)の残骸が、この地が激戦地だったことを物語っている。農地の中の短い滑走路が、今では障害物のないみごとなバラのテイクオフに生まれ変わっているのも印象的だ。
戦争がこの地であったことを忘れさせるほど湖の眺望は素晴らしく、湖を見下ろすまっすぐに伸びる長い稜線は、パイロットをクロカンに誘う。





ゴラン高原のテイクオフはティベリアス湖に面していて、湖に向かってテイクオフする。

だが、アダムがアドバースする。ここでは湖畔の畑に戻るように、常に十分なマージンを持って飛ばなければいけない。農地でない場所には、地雷や不発弾が点在しているからだ。というわけで、ランディングは道路の上か農地の中。これは実にシンプルで、ただひたすら、とうもろこし畑のど真ん中に飛んでいけばいいだけだった。恐ろしいアドバースとは裏腹にのんびりフライトできるエリアだ。



長い稜線が見えるのでクロカンに出たくなるが、農地以外には今でも地雷があるため充分なマージンを持ってフライトしなければいけない。

ヨーロッパ的な田園風景を のんびり楽しむならここ

シャロナ

>>>Map 4

滞在3日目、風は東向きに変わった。シャロナはゴラン高原よりも近く、テイクオフの向きが反対なので、ゴラン高原が飛べない風向きでは好都合のエリアだ。ファヴォル山を過ぎるとすぐシャロナの標識が見え、その道を辿ると小さな農家に着く。そこに一組の夫婦がまったく開拓者のような生活を送っていた。ここはこの夫婦の所有地で、二人は

完璧なテイクオフ斜面に整備していた。僕たちは干草の束とトラクターの納屋の間からテイクオフした。前方は、谷の多いなめらかな田園風景で、ヨーロッパの田舎の風景を思い起こさせる。ここは最初のキブツが定住した場所だが、予想に反して、彼らは砂漠を耕したのではなく、湿地帯を開拓したのだった。

シャロナはとりわけソアリングのエリアだが、谷の多い地形によってウェーブ現象が発生しやすく、この山岳波に乗れば、完全に地形の起伏を飛び越え、驚くほどの高度まで上昇することも可能だ。あるいはならかな斜面に沿って、アーモンドの木やオリーブの木の生えた果樹園の上空を気ままに空中散歩するのもいい。

シャロナのテイクオフは、農家の夫婦が好意で整備したもので、本当にのんびりした雰囲気だ。



シャロナのエリアは、ヨーロッパの田園風景を思い起こさせる景色だ。



アダムがアプコの最新グライダー「リブラ」でアクロを楽しむ。

パラを楽しむイスラエル軍の女性兵士に遭遇。



シャロナから見えるドーム型をしたタルボル山。有名なサーマルポイントでエリアもある。



イスラエルで最も有名なエリアのナタニヤ。リゾート地で高層リゾートホテルをかすめて飛ぶことができる。

4日目は、イスラエルでもっともポピュラーで、ナタニヤの町のと真ん中にあるエリア「カルメルホテル」で飛んだ。ナタニヤは、イスラエルにおけるニースやカンヌのようなところで、ビーチリゾートとして有名だ。標高差20m弱の小さな断崖が海岸を見下ろすように伸びて、数kmのリッジソアリングが楽しめる。筆者はこのエリアを訪ねるだけでもイスラエルに行く価値はあると思う。気温が高くなると、シーブリーズが毎日のように吹き寄せる。寒い季節でもシーブリーズの吹く確率は高い。

このエリアで驚かされることは、獲得高度だ。ときにはカルメル・ホテルの上空高くまでゲインできる。アプロコ社には、専属パイロットのバル・タカツがナタニヤの上空をファントムのように飛ぶ幻想的な写真が飾られている。ホテルのちょうど下、海の波打際を数台の車がヘッドランプで照明する中、バル・タカツが飛んだのだ。こんなことができるエリアが他にあってるだろうか？

ビーチリゾート・ホテルに滞在しながらパラフライトを楽しむには最高の場所だろう。なんといってもテイクオフは、目の前にあるのだから…。



ナタニヤビーチ上空でフライトを楽しむパラモーター。(Photo: Apco)



ホテル横のテイクオフから飛び立つアダム。使用機体はアクロ機のツイスター。

シーブリーズで楽しむ イスラエル随一の人気海岸エリア ナタニヤ >>> Map 10

Area Information

★エリアの番号はMapの番号に対応しています。

4_Sharon

東向き。テイクオフのGPS座標は、32° 43'30" (32.7252) 北、35° 28'36" (35.4769) 東。ここは東風に乗ってソアリングするエリアで、ちょっとしたクロカンも可能。ランディングは休耕地だが、そこよりも標高差100m下の場所にランディングしても歩いて登れる。ウィークデーにクロカンする場合は、空軍への申請が必要。

5_Yavneel

南東～北東向き。テイクオフのGPS座標は、32° 42'0" (32.7001) 北、35° 29'31" (35.4922) 東。ランディングは下の村の中にある。広さは充分あるが四方を囲まれているので、充分な高さでアプローチすること。特に冬がよく、リッジ、サーマルが楽しめるクロカンもイージー。ただ春先は強いサーマル・コンディションになるので注意が必要。

6_Mt.Tavor (ファヴォール山)

南西向き。テイクオフのGPS座標は、32° 41'19" (32.6888) 北、35° 22'54" (35.3819) 東。ナタニヤから車で一時間ほどのところにある65号線にあるアフラを通過し、次に標線を左に折れると、道路はそのまま山頂の修道院まで続く。ここはイスラエルでも最も定評のあるサーマル・エリアだ。ロマン・クリバクが76kmのトライアングル記録を出した場所でもある。

7_Gilboa Mt.Shaul

北東～東向き。テイクオフのGPS座標は、32° 32'2" (32.5341) 北、35° 22'34" (35.3763) 東。アフラから71号線を作り、次に667号線に入る。小さな道路がテイクオフまで続いている。ランディングは農道なので農地に降りないように注意する事。テイクオフは簡単。特に冬場のフライトが素晴らしい。

8_Muhraka

南東～東向き。標高差282m。テイクオフのGPS座標は、32° 41'18" (32.6886) 北、35° 5'32" (35.0924) 東。ランディングはテイクオフしたの90号線道路近くの空き地。テイクオフはイージー。ただし、空軍の飛行経路があるため週末しかフライトできない。

9_Zichron

ナタニヤと同じくシーブリーズを利用したソアリング・ポイント。西向きで、テイクオフのGPS座標は、32° 34'50" (32.5806) 北、34° 56'45" (34.946) 東。

10_Natanya (カルメルホテル)

西向き。テイクオフのGPS座標は、32° 18'41" (32.3114) 北、34° 50'39" (34.8443) 東。カルメル・ホテルの南側となる。トップランディングが基本で、リッジの高さは40m。シーブリーズを利用したソアリングのポイントで、イスラエルで最も人気のあるエリア。

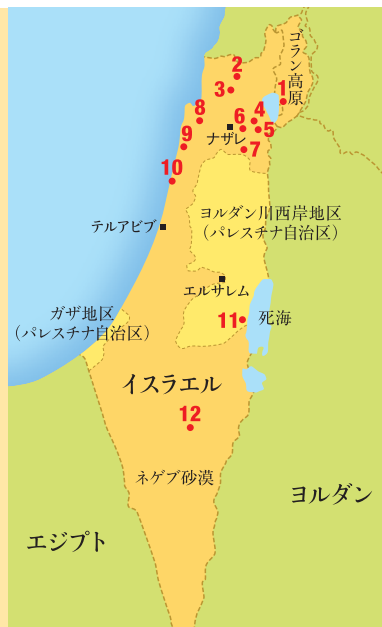
11_Mezokei Dragot (死海)

東向き。エルサレムから1号線を下り、死海に沿った道路の90号線に入る。左側に電線が中断しているのが目に入る。そこがランディングできるポイントのひとつだ。さらに1.5kmほど進み、右折して、「メズゲ・メラゴト、ワジ・ダルガト」の上り坂を進む。ほとんど山頂に近い。左に折れ、山道を囲いに沿って進み、それからさらに800m進んでから右に曲がって、落書きのある大きなコンクリート堀の前まで来る。断崖の縁に着いたら、起伏の多い地形なので、慎重に運転しながら進むと、吹流しが見えてくる。テイクオフは断崖の上からだが、特に神経質になることもない。トップ・ランディングも可能だ。

12_Mahstesh Ha-Gadol

北西向き。標高差は126m。テイクオフのGPS座標は、30° 56'8" (30.9357) 北、35° 1'14" (35.0207) 東。イスラエル唯一の南部のエリア。砂漠地帯にあり観光地としても有名な場所にある。特に冬がすばらしくリッジ・サーマル共に楽しめる。ただし夏と春は砂漠からの強烈なサーマルでラフなコンディションになる。また、南東方向には軍の施設があるためフライトが禁止されている。

注：イスラエルでは、金曜日はアラブ系民族の安息日、土曜日はユダヤ系民族の安息日で、日曜日は「通常」なのでウィークデーを間違えないように。





アプロコ本社にある縫製工場。広々とした場所に大勢の女性達が働いていた。

アナトリー・コーンが生まれ故郷のウクライナを去ったのは1972年。当時、航空技師だった彼は、ウクライナで禁止されていたにもかかわらず、密かに友人たちとハング・トライクを製作。それが当局に見つかり、コーン家は10日間の国外追放を科された。だが、この一家は以前から移住することを計画していたので、この事件は「タナボタ」だった。



こちらはカッティング工場。ここで働いている人たちは全員ロシア出身者だ。

アナトリー・コーンが、生れ故郷のウクライナを去ったのは1972年。当時、航空技師だった彼は、ウクライナで禁止されていたにもかかわらず、密かに友人たちとハング・トライクを製作。それが当局に見つかり、コーン家は10日間の国外追放を科された。だが、この一家は以前から移住することを計画していたので、この事件は「タナボタ」だった。

アプロコはバラ業界にとってもっとも素晴らしい存在のひとつである。バラ、バラモーター用グライダー、トライク用グライダー、ハーネス(年間に2000個製造し、他のメーカーの製造も行っている)、円形パラシュート・モデルのメーカーあるいは非常に評判の高いロガロ(年間販売数1500機から1700機)、バラ用バッグこれらすべてを自社



アプロコは斬新なアイデアに溢れたメーカーで、これまで多くの技術を革新してきた。

284kmの長距離飛行記録を筆頭に、アプロコ・ブランドのアストラとエクストラのグライダーは、南アメリカ人パイロットのアンドリュー・スミスとアレック

で製造しており、アナトリーはこのことを特に誇りに思っている。80人いる従業員はほとんど全員がロシア出身だ。一番の古株は75歳を越えているが、彼は初期からすべてのバラにサスペンション・

ラインを取り付けてきた。アプロコは進取の気性に飛んだメーカーで、サスペンション・ラインを、連結用バンドを使わずに直接リブ(インター・パーティション)に縫い付けて、翼下面の空気の流れをなめらかにして滑空性能を向上させたり、2000年にはマイラーを使わずにナイロン製のワイヤで翼前縁を補強することを最初に試み、翼前縁の上部にバルブを取り付けて加速時のキャノピー内のラム圧を確保したり、最近では流線形化したライザーの「プレット」を開発したりしている。細かいところを見れば、たくさんさんの発明を見ることが出来る。



いつでも訪問者を歓迎してくれるアプロコ代表のアナトリー・コーン。

常に来訪者を歓迎するアプロコ代表のアナトリー・コーン氏。時間があれば訪ねてみたいが、彼はどんな人物で、アプロコはどんなメーカーなのか、改めて紹介しよう。

アプロコ社を訪ねてみよう！

アプロコ本社ちかくにある世界遺産のカイサレアの遺跡。



世界中から観光客が訪れていて、いつもエルサレムは外国人でいっぱい。



エルサレムの街並。いたるところにモスクがある。



アプロコ社から数キロ離れたところに、古代ローマの港町のカイサレアがある。こも美しい。死海の泥温泉に行きたかったら、ランディングした後は是非行ってみよう。10km先の近い場所にある。死海で泳ぐなら注意が必要。潜ったり、目の中に入れたりしないこと。また切り傷や擦り剥き傷がある場合も入らないこと。死海の水は、何もしくとて浮くといわれるが、まったくそのとおりだった。他に死海の周辺にはたくさんのおもしろい場所がある(自然保護地区、温泉療養所、考古学...)。とりわけ砂漠の要塞マサダ(世界遺産)は印象的で、紀元73年にローマ軍による陥落直前にユダヤ人が集団自決した古代都市だ。

観光... せっかくイスラエルに来たらには、エルサレムには是非立ち寄りたい。こはキリスト教徒にとってもイスラム教徒にとっても重要な地である。そしてユダヤ人開拓者が最初に入植した地でもある。宗教に興味のない人たちにとっても、実際にこの土地に来るとその世界に引き込まれてしまう。キリストが処刑されるゴルゴタの丘まで十字架を担いで歩いたと言われるヴィア・ドロサ(悲しみの道)を、世界中から訪れる巡礼者たちが、真剣な面持ちで迎える姿を目にする。

入国... 航空便のセキュリティ・チェックは非常に厳しい。

1_Mevo Hama (ゴラン高原)

西向き。テイクオフのGPS座標は、32° 47' 40" (32.7945) 北: 35° 40' 25" (35.6737) 東。標高差600m。サーマル、リッジのソアリング、ショート・クロカンも楽しめる。ランディングは、農耕の状況によって変更するので、テイクオフ前にはランディングの位置を確認しておくこと。

2_Har Hari

全方位だが北風は要注意。標高差は737mあり、イスラエルの中でもサーマルフライトが楽しめるエリアとして有名。テイクオフのGPS座標は、32° 57' 12" (32.9534) 北: 35° 22' 21" (35.3727) 東。ランディングは広い農地。クロカンは、リッジを使って西か東の方向に可能。ウィークデーのフライトは空軍に申請が必要。

3_Camun

南東〜北東向き。標高差254m。テイクオフのGPS座標は、32° 54' 12" (32.9034) 北: 35° 21' 48" (35.3634) 東。道路に沿った大きな空き地のランディングは、テイクオフからは見えない。初心者には難しいエリア。北と北東の風のコンディションの時は、タービュラントなコンディションになるので飛ばない方がよい。

エリア案内をしてくれたアダム・ウェンジャー。アプロコのコンセプト兼テストパイロットだ。

